

# 2026年 JAごしょつがる 水稲栽培ごよみ(移植栽培)

JA 米の要件：①種子更新 100% ②水稲栽培日誌の記帳 ③農産物検査の受検

土壌診断を実施し、不足しがちなケイ酸や微量元素を補い、適正施肥に努めましょう！

月	旬	作業項目	栽培の要点																		
3月	上	①床土準備 ②塩水選 ③種子消毒 ④浸種 ⑤催芽 ⑥播種	<b>○育苗</b> ・浸種：水温 10℃以上で 10 日間 ・播種量：箱あたり 乾粃 100g(催芽粃約 125g) ・催芽：30～32℃で 16～20 時間加温 ・箱処理剤： <table border="1"> <thead> <tr> <th>資材名(対象病害虫)</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブーンレパード(いもち・紋枯・殺虫)</td> <td>箱あたり 50g(1kg 規格で 20 箱分)</td> </tr> <tr> <td>ルーチンコア(いもち・殺虫)</td> <td>箱あたり 50g(1kg 規格で 20 箱分)</td> </tr> </tbody> </table>	資材名(対象病害虫)	使用量	ブーンレパード(いもち・紋枯・殺虫)	箱あたり 50g(1kg 規格で 20 箱分)	ルーチンコア(いもち・殺虫)	箱あたり 50g(1kg 規格で 20 箱分)												
	資材名(対象病害虫)			使用量																	
	ブーンレパード(いもち・紋枯・殺虫)			箱あたり 50g(1kg 規格で 20 箱分)																	
ルーチンコア(いもち・殺虫)	箱あたり 50g(1kg 規格で 20 箱分)																				
中	・塩水選 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種粃</th> <th>比重</th> <th>食塩量 ※水 10L あたり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うるち</td> <td>1.13</td> <td>2.0～2.1kg</td> </tr> <tr> <td>もち</td> <td>1.08</td> <td>1.2kg</td> </tr> </tbody> </table>	種粃	比重	食塩量 ※水 10L あたり	うるち	1.13	2.0～2.1kg	もち	1.08	1.2kg											
種粃		比重	食塩量 ※水 10L あたり																		
うるち	1.13	2.0～2.1kg																			
もち	1.08	1.2kg																			
下	・葉いもち・初期病虫害防除(箱処理剤の施用)																				
4月	上	本田施肥  耕起	<b>○施肥</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>資材名/規格</th> <th>目安使用量/10a</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケイ酸資材(～田植え前)</td> <td>カキテツ/20kg</td> <td>2～3 袋。ガスわき軽減</td> </tr> <tr> <td>一発肥料</td> <td>楽勝一発/10kg</td> <td>3 袋・窒素量 9kg</td> </tr> <tr> <td>基肥</td> <td>パワフル基肥/20kg</td> <td>2～2.5 袋・窒素量 8～10kg</td> </tr> <tr> <td>追肥</td> <td>セラコート R スカイ/15kg (窒素 6.6kg/袋)</td> <td>航空機散布向け 1 袋で 30～60a 分</td> </tr> <tr> <td>ケイ酸資材</td> <td>KSK28/1.4・4.2・14kg</td> <td>1.4kg で 10a 分 中干し後の流し込み推奨</td> </tr> </tbody> </table> ※一発肥料・基肥・追肥の目安使用量は、「まっしぐら・はれわたり」基準	分類	資材名/規格	目安使用量/10a	ケイ酸資材(～田植え前)	カキテツ/20kg	2～3 袋。ガスわき軽減	一発肥料	楽勝一発/10kg	3 袋・窒素量 9kg	基肥	パワフル基肥/20kg	2～2.5 袋・窒素量 8～10kg	追肥	セラコート R スカイ/15kg (窒素 6.6kg/袋)	航空機散布向け 1 袋で 30～60a 分	ケイ酸資材	KSK28/1.4・4.2・14kg	1.4kg で 10a 分 中干し後の流し込み推奨
	分類			資材名/規格	目安使用量/10a																
	ケイ酸資材(～田植え前)			カキテツ/20kg	2～3 袋。ガスわき軽減																
一発肥料	楽勝一発/10kg	3 袋・窒素量 9kg																			
基肥	パワフル基肥/20kg	2～2.5 袋・窒素量 8～10kg																			
追肥	セラコート R スカイ/15kg (窒素 6.6kg/袋)	航空機散布向け 1 袋で 30～60a 分																			
ケイ酸資材	KSK28/1.4・4.2・14kg	1.4kg で 10a 分 中干し後の流し込み推奨																			
中	本田期間中の用水が無駄なく使われるよう、畦塗りや畦畔の補修等の漏水防止対策を確実にを行う。																				
下		代かき																			
5月	上	田植え  除草剤散布	<b>◎水管理</b> ○活着期(5月) 水田水温 16℃以上を保つ。 目安水深：2cm、4～5cm(低温時)																		
	中			○分けつ期(6月) 日較差 15℃、水田水温 20℃以上保つ 目安水深：3cm、5～6cm(低温時)																	
	下				○穂首分化期(6月下旬～7月上旬) 目安水深：3cm																
6月	上	追肥や除草剤散布等、屋外で作業する際は、熱中症対策を実施した上で、適度な休憩をとりましょう	○幼穂形成期(7月上旬～中旬) 到達後、気温の高低関係なく 10 日間水深 10cm を維持する																		
	中			○穂ばらみ期(7月中旬) 高温が予想される場合は、用水に応じ飽水管理(※)を行い、低温が予想される場合は、水深 10cm を維持する																	
	下				※飽水管理 水深 3cm まで入水⇒自然落水⇒入水を繰り返す																
7月	上	・中干し  ・カメムシ対策として、出穂 1 週間前までに畦畔の草刈り、除草剤散布(ザクサ、ダイロンゾル)  ・稲こうじ病対策(出穂 10～20 日前)	○出穂期・開花期(7月下旬～8月上旬) 出穂後 10 日間は水深 5cm を維持する																		
	中			○登熟期(8月中～下旬) 目安水深 3cm、高温が予想される場合は、用水に応じ飽水管理を行う。																	
	下				出穂期 (前年紋枯病発生ほ場については、紋枯病対策も併せて実施する)																
8月	上	カメムシ対策(1 回目)	○目安落水時期 湿田：出穂後 20～25 日 乾田：出穂後 30～35 日																		
	中			カメムシ対策(2 回目)																	
	下				落水																
9月	上	目安刈り取り時期 (出穂後積算気温) まっしぐら：960℃ はれわたり：970℃	※推奨：ワラ分解キング、石灰窒素 目安作業深：5～10cm																		
	中			秋耕																	
	下				腐熟促進剤散布(※) 稲わらすきこみ																
10月	上	秋耕	※推奨：ワラ分解キング、石灰窒素 目安作業深：5～10cm																		
	中			※カメムシ対策も兼ねて、本田内の雑草対策を徹底する																	
	下				○本田防除剤(液剤 使用量：0.8L/10a) <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害虫</th> <th>資材名・剤型</th> <th>希釈倍数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いもち病</td> <td>ビームゾル液剤</td> <td>6～8 倍</td> </tr> <tr> <td>いもち病・稲こうじ病</td> <td>トライフロアブル</td> <td>8 倍</td> </tr> <tr> <td>紋枯病</td> <td>モンカットフロアブル</td> <td>8 倍</td> </tr> <tr> <td>いもち病・カメムシ</td> <td>ダブルカット K</td> <td>8 倍</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">カメムシ</td> <td>スタークル液 10</td> <td>8～16 倍</td> </tr> <tr> <td>エクシードフロアブル</td> <td>16 倍</td> </tr> </tbody> </table>	対象病害虫	資材名・剤型	希釈倍数	いもち病	ビームゾル液剤	6～8 倍	いもち病・稲こうじ病	トライフロアブル	8 倍	紋枯病	モンカットフロアブル	8 倍	いもち病・カメムシ	ダブルカット K	8 倍	カメムシ
対象病害虫	資材名・剤型	希釈倍数																			
いもち病	ビームゾル液剤	6～8 倍																			
いもち病・稲こうじ病	トライフロアブル	8 倍																			
紋枯病	モンカットフロアブル	8 倍																			
いもち病・カメムシ	ダブルカット K	8 倍																			
カメムシ	スタークル液 10	8～16 倍																			
	エクシードフロアブル	16 倍																			

**○乾燥・調製**  
 ・玄米水分：15%  
 ・米選機の網目：1.9mm  
 ・整粒歩合：80%以上

**★わら焼き防止の徹底**  
 ・わら焼きの煙は、人の健康を害し、交通の妨げ、誘致企業の操業や観光産業等の社会活動への障害となるので稲わらは絶対に焼却しない。  
 ・稲わらは、堆肥や家畜の飼料等へ有効活用するほか、条件の良いほ場では秋のすき込みを積極的に行う。

**○腐熟促進剤**

資材名/規格	目安使用量/10a
ワラ分解キング/10kg	1 袋
石灰窒素/20kg	1 袋
	※翌年作付け時、10a あたり窒素 1kg 減肥推奨